

9月25日（金）

おはようございます。

先日の連休中に、教育学専門の先生方と会う機会がありました。いつも私が生徒朝礼の話題で苦しんでいることを知っていて、参考になるお話を聞かせてくださいましたので、それを紹介したいと思います。

学校で良いクラスを作っていくにはどうすればよいかという課題についてのお話です。これにはもちろん担任の先生方の努力も必要ですが、実は80パーセントは生徒側の努力にかかっているというのです。

お聞きした話の冒頭に、「グループ」と「チーム」の違いは何かというのがありました。「グループ」とは、メンバーがなんとなくその集団に加わっているという感じです。それに対して、「チーム」というのは、メンバーが一つの目的を持っていて、そこに参加しているという感じです。この考え方に沿って、クラス作りを考えてみると、よいクラスにするためには、「クラス全体がチーム的な色合いを出せるようになる」ことが大切だということでした。

ではその目的は何か。実際にいろいろな目的を諸君は持っているでしょうが、最終的にはおそらく、希望する大学に全員が合格するということがあるでしょう。そうであればその目的に見合ったクラス全体の共通の目的がなくてはなりません。その目的のために必要なことは、まず、多種多様な人材がそろっていることだそうです。

例えば、野球で言えば、これまで5人がピッチャー経験者で、その全員がピッチャーしかしないというふうに譲らないと、チームにはならない。彼がピッチャーをしたいというのであれば、自分はキャッチャーをやろうというふうに考える。さらにもう一人が、そうなら、自分は外野の守備につこうと考える。それぞれが自分で考えて、いろいろなカタチに変化していき、チーム全体に貢献しようと思うことで結束し、チームカラーが決まってくる。要するにメンバーの気持ちが皆自分勝手にバラバラならば、チームカラーは出てこないのです。

以前、とある塾の先生に伺った話ですが、「誰かに勝たなければいけないとか、誰にも負けられないという気持ちが強すぎて、極端な言い方をすれば、メンバーを貶めてでも勝たなければならないという雰囲気になってしまった学年は、まったく結果が出ない。そうではなくて、メンバーがお互いに声を掛け合って、分からないところは教え合おう、助け合おうという雰囲気の学年は、上位のメンバーはもちろん、ボーダーラインの子どもたちも結果を残している。

自分だけのことしか考えないエゴイストの子でも合格することはあるが、そういう子は進学してから伸びないものだということでした。

話を元に戻しますと、よいクラス作りの第一番目は、クラスが共通の目的を持っていること。第二番目はクラスに多種多様な人が存在しているということ。それは、メンバーの各自がクラスへの貢献方法を自分で考えて変化できるということです。第三番目は、クラスが安全で安心できるということ。いじめのあるクラスでは話になりません。メンバーがいじめられているのに、黙って知らぬふりをしているようでは、安全なクラスではない。安全なクラスでなければ、皆がのびのびと精一杯チャレンジすることはできません。第四番目は、モチベーション(意欲)とエンゲージメントだそうです。エンゲージメントとは分かりやすく言うと、「愛着」ということです。「これがオレのクラスや！」という感じを持っていてということ。この感じがあるかどうかで、クラスがチームになるか、グループで終わるかが決まってくる。そしてチームになれたクラスは非常に仲がよくなります。卒業生の合格体験談を読んでいてもそれがよくわかります。「クラスの雰囲気がよくて、それに助けられた」という内容がよく出てきますから。

クラスの雰囲気がよいと、自分がクラスへ貢献したことが、巡り巡って自分自身にも還ってくるのです。成績の上位者だけではなく、ボーダーラインにいる生徒も合格を勝ち取ることになる。これは、クラスが、自分を伸ばす雰囲気と皆を伸ばす雰囲気に満ちているということでしょう。

かつて阪神タイガースの監督が星野仙一氏であったとき、監督一年目の年は最下位だった。しかし二年目には優勝した。「二年目は一年目と違い、雰囲気がまったく変わっていた」と監督が仰っていました。周りはそれを星野マジックと呼んでいましたが、一年目は、試合中の勝敗を分けるポイントが見えたとき、ベンチを見回してみても、ほとんどの選手が知らん顔をしていた。しかし二年目は、そういうとき、ピンチヒッターとして出たいという選手全員から熱い視線を感じたという。

今の自分のクラスがグループに過ぎないのか、それともチームになっているのか一度よく考えてみて下さい。チームとは良い雰囲気があり、皆で頑張ろう、皆で仲良くしようという気持ちで溢れているものです。先生方の指導をよく聞いて、チームになるべく努力して貰いたいと思います。まさに自利利他の実践です。

今日の話はこれで終わります。

学校長